stryker

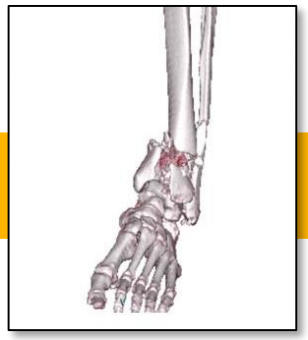
ハンズオンセミナー

第32回 日本創外固定・骨延長学会

講　師　**野坂 光司** 先生　秋田大学医学部 整形外科

テーマ　**「明日から失敗しないピロン骨折の治療法」**

～Pilon骨折は創外固定器を使ってTemporaryから
MATILDA法でDefinitive固定へ～



日　時　2019年 3月2日（土）14:00～16:00

会　場　秋田アトリオン 地下1階 多目的ホールA

定　員　20名

申し込み　本セミナーへの参加は抽選とさせていただきます。
申し込みは右記のQRコードよりフォームにアクセスし必要事項をご記入下さい。

共催：第32回日本創外固定・骨延長学会／日本ストライカー株式会社
お問合せ先：日本ストライカー株式会社 Trauma Marketing 成井　TEL：03-6894-0000(代表)

抄　録

LRFの特長を生かしたPilon骨折における MATILDA法のコツ

野坂 光司 先生
秋田大学　医学部　整形外科

遠位横止めスクリューが数多く挿入できる髄内釘や薄く強度の強いロッキングプレート，far cortical lockingなどmicromotionを許容した新しいロッキング機構など，内固定材料の進化は著しく，リング型創外固定の必要性は低下しつつあるとされている．しかし，リング型創外固定を使ったほうが治療しやすい症例が少なからず存在することも事実である．リング型創外固定は『軟部欠損，骨欠損を伴う重度四肢外傷』，『軟部損傷の強い関節周辺骨折』，『通常の内固定材料ではスクリューによる把持が困難な著しい骨粗鬆症骨に生じた骨折』において，通常の内固定と比較した相対的な良い適応である．
我々が行っているロングロッドを使用したリング型創外固定による靭帯性牽引を用いた閉鎖的整復方法**M**ultidirectional **A**nkle **T**raction using **I**lizarov external fixator with **L**ong rod and **D**istraction **A**rthroplasty in Pilon fracture（**MATILDA**法）は，precutaneous osteosynthesisの特性を生かした，損傷の強い軟部組織や骨組織に対して，大きな皮膚切開を行うことなく，極めて低侵襲かつ強力な固定力を持った骨接合を行う技である．足関節周辺は皮下組織が菲薄で，真皮の伸展性に乏しく，無理な内固定では術後皮膚障害がみられることがあり，1.8mmのワイヤーにより強固に固定できるHoffmann LRFは有用である．今回はStryker社リング型創外固定『Hoffmann LRF』ならではの特長を生かしたMATILDA法におけるPilon骨折の固定方法を解説する．